

解放直後・在日済州島出身者の生活史調査（10・上）

—— 朴榮萬さんへのインタビュー記録 ——

藤永 壯／高 正子／伊地知紀子／鄭 雅英／皇甫佳英
高村竜平／村上尚子／福本 拓／高 誠晩

A Survey of the Life Histories of Resident Koreans in Japan
from Jeju Island in the Immediate Postwar Period (10) — Part I —
— An Interview with Park Youngman —

FUJINAGA Takeshi, KO Jeongja, IJICHI Noriko, CHUNG Ahyoung
HWANGBO Kayoung, TAKAMURA Ryohei, MURAKAMI Naoko
FUKUMOTO Taku, KOH Sungman

本稿は、在日の済州島出身者の方に、解放直後の生活体験を伺うインタビュー調査の第10回報告である。この調査の目的や方法などは、「解放直後・在日済州島出身者の生活史調査（1・上）」『大阪産業大学論集 人文科学編』第102号（2000年10月）に掲載しているので、ご参照いただきたい。

今回の記録は、1930年済州島旧右面今岳里（現・済州特別自治道済州市翰林邑今岳里）のお生まれで、現在は大阪府中央区に在住しておられる朴榮萬さんのお話をまとめたものである。

インタビューは2009年8月23日、大阪市天王寺区の大阪府教育会館「たかつガーデン」で、藤永壯・高正子・皇甫佳英・高村竜平・高誠晩の5名が聞き手となって実施した。テープから起こした原稿は鄭雅英が中心となって編集し、不明な箇所は鄭から朴榮萬さんに繰り返し伺った。そして全員での確認作業を経て、高が用語解説、福本が参考地図の作成、藤永が最終チェックを担当した。

以下、本稿の凡例的事項を箇条書きにしておく。

平成23年6月30日 原稿受理
大阪産業大学 人間環境学部

- (1) 本文中、文脈からの推測が難しく誤解が発生しそうな場合や、補助的な解説が必要な場合は、[] で説明を挿入した。
- (2) とくに重要な歴史用語などには初出の際*を付し、本文の終わりに解説を載せた。第4～9回報告で解説した用語については、丸数字で報告番号を、アラビア数字で注番号を記し、かっこでくくった（例：(④ - * 13) は第4回報告の* 13をあらわす）。
- (3) 朝鮮語で語られた言葉は、一般的な単語や固有名詞などの場合には漢字やカタカナで、特殊な単語や文章の場合はハングルで表記し、日本語のルビをふった。
- (4) インタビューの際に生じたインタビュアー側の笑いや驚きなどの反応については、〈 〉で挿入した。
- (5) 話者が語った日本語・朝鮮語は、話者の発音どおりに表記することを基本としたため、いわゆる「標準語」とは異なる場合がある。

なお本稿は言うまでもなく、朴榮萬さんの証言からとくに重要と思われる箇所を中心に抜粋、編集したものである。できるだけ客観性に配慮しつつ証言を再現しようと努めたが、編集の手が入っている以上、叙述に編者の主観が反映されている可能性は排除できない。本稿の内容に関する責任は全面的に編者にあることを、あらかじめおことわりしておく。

濟州島の子ども時代

《出生と小学校時代》

——4・3 [濟州島 4・3 事件] の体験を中心にお伺いさせていただきたいんですけども。ご自由に、戦前^{チェジュド}濟州島の出来事から順番にお話しただけでいいでしょうか。小さいころのお話から。確認で、お生まれになったところと場所。それから、歳。そこらへんからお話しただけませんか。

朴：昭和5年やからね。数えの80になりました。

——1930年生まれですね。

朴：今では考えられないような、うちの郷里では、いっさい恋愛は禁止やしね。仮に恋愛したら、常識のない人間として、村八分にしてもう大変ですよ。そして、うちのお父さんは14歳、お母^かさんは18歳の時に結婚をしたんですが、夫婦になる人が[結婚前に]対面するのも一切禁止でね。やっとな結婚式の日に対面するような、そのようなのがありまして。まあ、初対面^おでいわゆる、今日言うフィーリングが合う人はいいけどやね、

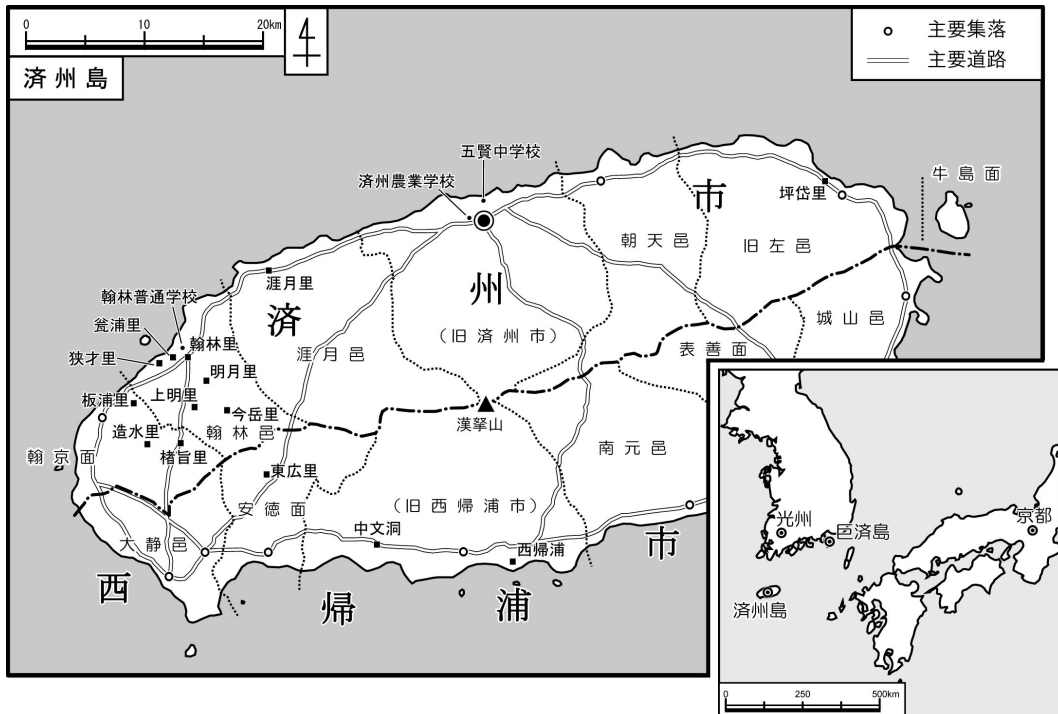


図1 本稿関係地図(1)

これ合わない人は大変ですわ。

で、お父さんの結婚生活がどうか言うと、だいたい4カ月くらいですね。もう、4カ月後には日本に来てしまっ^とてね。うちのお父さんの兄貴は当時、日本の京都に住んでおりました。父は、何がなんでも海外へ行こう言うて、京都に住んでる兄貴を訪ねてね、若干14歳で来て住んでおりました。[だから] 私は兄貴もなければ弟も、姉さんもない、妹もない。たった一人の身分ですわ。

——小学校は翰林^{ハルリム}？

朴：うちの村の今岳里^{こんがくり}は、翰林^{ハルリム}の小学校の付属の簡易学校*1というてね、1年、2年だけ行く制度があったんですわ。2年卒業したくらいに、翰林西小学校^{ハルリム}1)に。翰林東はね、日本人が行く学校でね。東小学校は、生徒数が多くて11人か12人。ほんで先生が一人。

——西が韓国人^{こんがくり}。今岳里^{ハルリム}から翰林^{ハルリム}の方に通われていた。

1) ここで朴榮萬さんが「翰林西小学校」と述べているのは、正確には「翰林西国民学校」で、現在の翰林初等学校の前身である。

朴：そうそう。だいたい3年ぐらい通って、また3年ぐらいは翰林^{ハルリム}の方に下宿みたいなのして、翰林^{ハルリム}小学校に入って、3年ぐらいから入らなあかんのね、えっと4,5日3年生に行つて、もう1回2年生から始めて。それで翰林^{ハルリム}小学校に入るのにでもね、1年くらいかかりましたよ。お母さんがね、うちの息子、何とか入れるようにしてくれ言うて、[教員たちを]呼んできてご馳走作つてやつたり、金やつたりして。1年くらい酒や料理を特別にしてやつて。今に言うたら京都大学入つたような、そういう感じですよ（笑）。



図2 翰林初等学校

——何歳の時に入られたんですか？

朴：翰林^{ハルリム}小学校やつたらね、9歳ぐらいですよ。

——^{ソンセンニム}先生、1930年生まれですよ。

朴：1930年生まれやけど、本当は33年生まれになってますね、戸籍は。翰林^{ハルリム}小学校入ろうと思たらね、戸籍に入つてないですねん。

——小学校入る時に分かつた。

朴：うん、うちの母は一人やから、戸籍入れることなんか分からへんしやね。「戸籍持つて来て」言われて、「ないです」言うて。「戸籍作らなあかん」言うてね。せやから当時ね、80円要りました、戸籍に。まともにいったら110円くらい要るから、3年くらい[年齢を]下げてね、年数多かつたら金額張るから。それで80円でやつたんですよ。80円^{バック}え[だけ]払うのでもね、畑1個売つて、そうして払いましたよ。当時80円やつたらね。

——そんなにしたんですか？

朴：今、80万円以上やろうな。

——それで学校に入るのは遅れたということですか？

朴：そうですね。そして、日本の大東亜戦争の時には、私が小学校4年生の時、沖縄戦が

真っ最中であって、そして当時少年兵をつくるんだといってね。学校では金曜日に、軍隊の兵隊さんも一緒に参加してね、軍事教練もやったり、それから学校のなかに入ったから奉安殿がありましてね。毎朝、東、日本に向かってね、宮城遥拝*2をしたり、そうして徹底的な日本人に忠実になれというように人を育てておりました。

私の^{ハリム}翰林西小学校も教員が17名おりますが、朝鮮の先生は4人、あと13人は日本の方ですわ。そして校長は鹿児島^{ハリム}の平川〔中吉〕先生。教務主任は富永〔貞男と〕って、四国の高知の人。だいたいね、四国か九州の先生が多かったですわ。そうして、少年兵出て来いという号令がかかったら、いつでも出るという雰囲気にする。金曜日に軍事教練なんかする時にはね、級長、副級長は日本刀なんか下げて壇に立って、そうして閲兵を受けたりというような経験があつて。私も4年生の2学期からね、副級長になったもんやから、5年の時は、日本刀を下げてね、壇の上に立って5年生の級長、副級長、6年生の級長、副級長、4人でね、閲兵をやると、今では考えられないような時でありました。

《日本軍の駐屯地》

朴：ある日、赤いトンボが西の方に3時間近くは飛んで行くんですよ。「これは、おかしいな」と言うとなら、半月したら日本の兵隊さんが上陸*3してきてね。もう海岸におらんと、どンドン山の上に行きますねん。理由を聞くと、だいたい満洲におった兵隊らしいんですが、満洲はもう地面が水平線^{ハリム}でね、相手がすぐ見えるのに、この済州島の場合は、だいたい石が多いんですよ。で、石垣が多いと、敵から石1個くらいで身を隠せるからね、「なんぼでも戦ってみせる」と言うて、兵隊が来たんですが。後で分かったんですが、その数は10万ですわ〔実際は約7万5千名〕。アメリカ軍が、なんぼ入ってきても構わんようにと。

——日本軍がいた時のことを。まだ解放前の小さい時のことを、ちょっと伺いたいんですけど。あの、さっき日本の兵隊がどンドン上がってきたという話をされて、その時に、ここは石がたくさんあつて隠れるところもあるから、米軍が来ても戦うんだと。それは日本軍の兵隊さんに直接聞いたんですか？

朴：そうです。いや、日本〔軍と〕言ったらね、うちの村からはずれにね、おおかた2、3千人くらい駐屯してたかな。その隊長なんか、わし親しくお付き合いしました。子どもやから、わし来たら喜ぶから。

——その人たち、日ごろ、昼間、何してました？ どんなこと、作業？

朴：作業はせなんだ[しなかった]ですね。材木で家作って、それで住んだりしとってね。まあま、日本人も兵隊もね、ええこともあれば、悪いこともあります。

——部隊に朝鮮人の部隊というのはなかったんですか？

朴：いや、みな日本人の部隊、日本の兵隊で。テントに17, 8名寝て、班長が入り口のところに、こう仕切って寝てる。

——その食糧とかは、軍の食べ物、どこから調達するんですか？

朴：いやいや、日本からみな運んで行くやん。運んで行くし、濟州島で事前に供出いうて集めたものもあるし。白ご飯腹いっぱい食べて、腹いっぱいや、いうわけにはいかんけどもやな、ちょっと腹減るような感じ、ということは、村に来て、ちょっとパンがあったら、パンを^ミ買うて食べたりするの見たら。なんでやと聞いたら、いや、ちょっと腹減るなと言うて。

——村にそういうの買いに来たりしてました？

朴：いや、買いに行く人はそんなにおれへん [いない] けど。2, 3人くらい。

——その人らが、昼間何したかというのは分からないのですか？

朴：訓練を受けていた。鉄砲とか、大砲なんかはみな隠してる。とにかく、沖縄と正反対。濟州島は上がって来いと。石がようけ[たくさん]あるから、こんなええとこない言うて。

——それは、場所の地名とか覚えてはりますか？ 部隊がいた村の名前とか。^{クマンリ}今岳里の村からどっちの方面ですか？

朴：村の上に山があってね、山のちょうど南側や。駐屯地は山のふもとや、駐屯地はね。村の真横。

——軍隊の駐屯地の跡、痕跡のようなものはありますか？

朴：今はない。きれいにみな、昔あった石のようなものも潰してきれいにして、今はない。きれいにやってる。だからね、戦前おった人が今見たら、みなびっくりする。

わしが^{トングァンリ}東光里の裏にちょっと行って見たらやね、きれいな人が何か固まっておるから、なんじゃ言うたら、あれ、みなバス待ってます、言うて。濟州市から^{チュンムンリ}中文里までバス

が15、6分くらいに1台ずつ出てるよ。昔はね、あれネズミとネコしかないところや。今はもう。

昔は、^{こんがくり}今岳里から済州市まで行こうと思ったら、夕ご飯食べて、山のふもとから行ってね、夜1時くらいになったらそこで一服して、ほんで朝着いたらね、朝6時くらい。おじさんがちょっと入院しとったから。今はね、えっと40分かからんよ。^{こんがくり}今岳里まで。今は、ええ道なってる。

《解放》

朴：そんなことをしておったんですが、ある日、先生らもみな元気がないし、地域の役員らも元気がないし。おかしいなと思とったらね、平川校長がね「昨日、天皇陛下の命令でね、18年間戦争中止にしたんだ」と。「だから、自分らも1回日本に帰ってきてね、18年後には戻ってきて同じように生活するぞ」と。[それまで]平川校長の言うのには、「今アメリカ、イギリスと戦って、ほぼ勝利するに間違いのないだ」と。「しかし、あるいは負けた場合は、ロシアの北極に移動[させられて]してしまうから、東南アジアにはアメリカ人ばかりが住むようになってしまうから、とにかく負けたら大変だ」というようなことを、しょっちゅう言われてね。「みな戦争に協力するんだぞ」と。しかし日本が負けた言うたから、涙がぼろぼろ出してやね。いや、もう日本は戦争に負けてね、これからもう大変だと思っていたら、後から見ると、平川校長の個人的な全くの作り話でね。

日本が負けて大変だと知とったらね、歴史家で著名な^{キムボンヒョニ}金奉鉉*4という人がね、日本が今、敗戦になってね、うちのは特別の国になったからね、もう日本人に今までのようにけなされることなく、胸を張って歩けというような話をするから、「いやあ、そんなもんかな」というような話をしておったらね。

ある日、われわれ朝鮮にもね、旗があるんだと。そして、旗を作るところが向こうにあるというから、「いやあ、うちの国にも旗、どんな旗かな」思っただけでね、4、5人でもう走って行って見たらね、ちょうど旗半分くらい作っておったけどね。あの^{テグッキ}太極旗ですわ。そうしてどんどん、どんどん解放の味を味わうようになって、まさか最後にね、4・3事件のような事件起こってね、殺し合いするような、こんなバカなことは夢にも思わなかったですわ。

——解放の時はいくつでした？ 何年生でした？

朴：それは5年生くらいと思いますよ。だから翰林^{ハルリム}小学校に3年から入ってるから、その学校に何年かずっといました。副級長も4年の2学期から6年生までずっとやったからね。だから5年生の時に〔解放〕。6年生の時はほんまに半分、内乱やったからね。

3・1から4・3へ

《翰林での3・1記念日》

朴：[1947年に]わが民族の独立の闘争の記念日である3・1記念日^{④-＊11}を盛大にしよう、というような話になってね、済州市の北小学校に3万人〔集まった〕。で、私の翰林^{ハルリム}小学校は韓国で運動場が2番目に大きい運動場ですけどね、その運動場に、だいたい3万人集まってね。

翰林^{ハルリム}小学校ではね、特別記念日として砂を真白く引いて、特別に記念しようと思ったからね、3万人どころか、私は入られん〔ほどの人〕でね。石垣の上に立って、その大会を見ました。下にいたら、小さいから大人のために見られへんしな。その大会を見ると、昔から本当に優秀な村の里長とかが議長壇に上がって、それこそ〔式を〕厳肅にやってね。「いやあ、この人らがわれわれを引っ張ってって、独立の国になったらいいな」と思っておったんですが。狭才^{ヒョプチェ バク}の朴^{ハルラサン}ユン Chol いう人は、演台に立って、もうすごい演説をしましてね。「今日、この日は漢拏山^{ハルラサン}の真上の池にある白鹿潭^{ベンノクタン}の池のなかにおる鯉も、これを祝って池の周りで飛び回っているはずだ」と名演説してね。「いやあ、演説もいろいろあるもんやな」と。こんなに〔心が〕振動するものがあるもんかと。

そうして、姜文豪^{カンムンホ}という面長²⁾がおってね、日帝の時代に麦の集めたやつを横流しにしてごっつ〔とても〕金儲けたことありますわ。そしたら今日の大会で、この面長を引っ張ってきて、つるし上げしようと。そういう計画があったけどやな、この会を担当している金奉鉉^{キムボンヒョン}と金煥石^{キムファンソギ}の二人がね、「これさしたら、うちらが大変や。そんなことさせないようにしよう」言うてね。それで金奉鉉^{キムボンヒョン}が壇上に上がって「なんぼ悪い面長で殺す〔べき〕人間でも、神聖な3・1の面民の大会の時に面長をつるし上げたことが分かったら、よその面の人、あるいはこれからの若い人に対して、そんなバカなことした〔と言われた〕ら返事〔のしよう〕がない」とばーんと言うたらね、一声でね、さっと収まりましたよ。

2) 翰林面の面長は旧右面と呼ばれていたころの1929年以來、金昶宇という人物が一貫してつとめており、「姜文豪」ではない。その他の済州島の各面長の中にも姜文豪という人物は見当たらなかった。73頁では姜文豪を「うちの村の里長」と述べておられるので、今岳里長をつとめた人物の可能性もある。

そりゃ、そうですよ。神聖な場所で昔の悪いことした人つるし上げて、やいやい言うたらね、変な会になるからね。それもそうだと行って止めました。

——^{キムボンヒョン}金奉鉉さんとはよく、その時から付き合いがあったんですか？

朴：いやいや、同じ村であると同時に、えーっと、あの人はね、あの一、済州市の第一中学校から^{オヒョンチュンハツキョ}五賢中学校^(4)*13)という名前に変えてあったけどね。あこ[あそこ]の、主任ぐらいすると同時に、うちら、^{ハルリムチュンハツキョ}翰林中学校やる時でも、あの人の設立する時は[果たした役割は]大きかったですよ。

——^{キムボンヒョン}金奉鉉先生はその時、何をされていたのですか？ 3・1の集会があった時ってというのは。

朴：あの、済州島の第一中学校の主任も見るけど、^{ハルリム}翰林小学校の、たいてい月に2、3日来ててね、講師を、指示をしたりね。

——あ、先生をした？

朴：先生もちょっとするけどやね、学校運営の指示ですわ。いろんな配置。先生もちょっとやりました。教えて。

——その3・1の時は、中学校の1年生とか2年生ですか？

朴：中学2年。私が記憶で言うから、ちょっと食い違いあると思いますけどね、2年生の時。

——中学は、2年までいてはったんですか[おられたのですか]？

朴：3年目は内乱でとっても学校できませんねん。

一方でね、右派で、^{ハンドクタン}韓独党*5、韓国独立党の[3・1記念の]会合は別にありましてね。面事務所の隣にね、面会議所いうてね、日本の小学校の教室二つくらいの大きさですわ。そこへ集まって会議を開いたんですが、そこに来る人は少ないような空気があったので、面事務所の右翼、^{ハンドクタン}韓独党の会合に参加したらね、お酒1本、ビール瓶のお酒、それと煙草1本[もらえる]。終戦直後やから酒もなければ煙草もない。そうした集まり、したんですが、そこに集まった人が何人かいうたらね、7、80人ですわ。100人もならん。そこにはどのような人が集まったかいうたら、たいてい昔の官僚とか、特殊な会社で行政面で横領して金を儲けた人、そういうような人が中心になって行ってね。うちら^{ハルリム}翰林小学校で集まっている一般大衆は、みなで集まって独立権利を祝おうと、そん

なんしてやったんですが。

《3・1 記念集会参加者への弾圧と最初の拘束》

朴：ところが、この3・1 記念に参加する人、すなわちこれは左翼やから、左翼はたとえ一人でもおったらあかんと言うて、これをみな肅清しようというようなことになって。まあ手あたり次第に引っ張って行って殴ったり、いろいろしますけど、私も海岸から7キロぐらい上の、^{クマンリ}今岳里という村にありましたけどね、[警察が] 村を包囲するんですよ。包囲して「とにかく、みな集まれ」と言うて。もし集まりに出て行かん人がいたら、これこそ大変ですわ。で、みんな集まるとね、「15 歳以下、それから65 歳以上は [前に] 出て来い」と言うて。そしたら出ますね。

で、出て行ったら、「あんたらはいったん家に帰れ」と。残りの人は一切、^{ハルリム}翰林警察の独房に入れるんですわ。だいたい45 人くらいですけどね。そうしたら、そこ行ったら、警察の隣りですけどね、そこへ^ち小さい空地があったので、そこへいったん座らします。そうしたら、^{ソフクチョンニョングン}西北青年団^{⑥-*}3、この人らが棍棒持ってきてね、殴ったり蹴ったり、もうこれ大変ですよ。で、ときに女性の人ね、もう尿をもらしたりね、吐いたりね、年配の人は意識不明になったりね。たいてい本格的に殴るのはね、夜は9時からですわ。昼から殴ったら、みなわめくからね、9時からですわ。私も殴られる場面を見たけどやな、明るる日になってね、「あんたの名前は何」「歳は何」、こうですよ。こんなバカなこと。

私も、とにかく仕事は放っておいて、逃げなあきません [逃げなくてはなりません]、逃げな。村にいて捕まえられたら、警察に引っ張って行って殴られますからね。[でも] 私も大雑把な考えだから、何もそこまでしないのと違うかいうて [思っていたら]、警察に4回、軍隊に2回 [捕まる]、そういう経験しました。

^{ミョンウォル ヤンキスク}明月の梁起淑いう人が、青年団の副団長くらいですが、[警察が彼を] むちゃくちゃ殴ったから、もう意識不明でしてん。朦朧としてしまって。その人をね、バケツ一杯水を汲んできて、ぶっかけるんですよ。そうしたら、朦朧としている人がバツと元気が出てきて、ほんでまた殴るし。

私も、ある警察官が来てね、「お前、少年隊 [民主少年団?] に入ったんと違うか」言うてね、「これから30 回殴る」と。30 回殴る時に、「はい、入りました言うたら、殴らんと注意 [だけに] するから、それ気をつけれ」言うて、30 回殴るんですわ。短刀みたいなのでね、^{テナム}竹の。まだ小学校5年にしかならん人間がね、耐えられませんか。「いやいや話します」言うてもね、やった経験がないから、あきません [言えません]。言

うたらね、しまい針金で天井にぶら下げて。これだけやったら [これだけだったら] いいけど、ぶら下げた人の足を引っ張るんですよ。そしたら、冬も寒いのにね、もう汗がダクダクですわ。ね、同じ同胞でね、こんなことするなんて夢にも思わない。悲惨な目に遭いました。

そして、もう一つは、コレラが流行*6してきましてね。もう、済州島は医者もおりません。そやから、コレラ流行したらね、各村にね、みな遮断して人が出入りできんようにした。第一、たいていどこの村も自給自足やからね、野菜もあれば、米もあるからいうてね、やっておったんですが。ある日警察が来てやね、見たら村の入口にいろんな刺すような木 [先端を削った木材] をいっぱいやって [積んで]、人が通れんようにするもんやから、今度は警察の署長が怒って来てね。その人 [村人] を今度は拳銃で殴ったりするんですよ。そんなことするから、[以前は]「よっしゃ、俺も立派に勉強したら、あれに負けんようにしよう」とよい感じやったのに、人を殴るの見たら「こんな下品な人はないな」と。

今みたいに、電話とかテレビとか全然ない時代やからね、各方面に連絡する時には紙に書いたものを誰か持って行ってね、連絡するんだが。うちには密告が多いですよ、密告が。うちの村にも密告する人が、^{カン}姜ヒョッキいう人で、お父さんが^{クマク}今岳の里長しながら、横へ流した金をもって、ごっつい金持ちになった人がおりますが。この^{カン}姜ヒョッキが右翼の大玉 [大物] になってね。[村人が] 青年団*7とか民主青年同盟*8とか組織しようと思ったらね、「そんな簡単に入ったらあかん」と、妙なこと言うからね、「なんで、こんなこと言うのかな」としとったら、その人が右翼の大玉になって、その人がちゃんと名簿を作成してね。だいたい左翼の人はこういう人だと言って、警察署に持っていきますねん。そしたら、まずはその人を捕まえるのが大事で、[警察が] 包囲して行って、その人が捕まえられんと、今度はその人のお父さんが大変ですよ。「お前の息子、どこへ逃げたんや、出せ」言うてね。お父さんを連れて行って、殴ったりします。

済州市の警察本部のほうに、1回だけ私、何の罪もないのに送られて行って。そこはましかと思ったら、そこでは夜11時からですよ、人を殴るのは。息子が山に逃げた関係で親が連れていかれた人は、半殺しですよ。とにかく逃げんな [逃げなければ]、生きる道がないですよ。そうして、逃げようと思ったら一番何がいいかいうたら、第一は日本に行くこと。二番目はね、軍隊に入ることですよ。軍隊に入ったら、明るく日からもう調査に来ませんね。

とにかくもう、これは世紀の末期だと言って、みなもう溜息してね。警察が出ていった後にはもう、残った豚とか鶏とかつぶして帰ってね、「われわれもいつあの世に行く

か分からんから、まあ一杯飲んで、明日死んでもいいやんか」という雰囲気だね。そしたら、今度は山に逃げた人の親も、もう家におられんからみな山に行きますねん。そうしたら、濟州島ではもう、農業が主やからね、山に行って、好んで行く人、一人もいないですよ。命からがら逃れるだけ逃れようと。そうして行ったんですよ。

——結局、3・1の集会に参加をしたということが、その後ずっと捕まったり、なんか拷問を受けた原因になったということですか？

朴：3・1に参加したことが分かったら、もう殺してしまいますよ。

——はあー。

朴：そんなあんだ。だから、わしも、うちの小学校のね、私が、3年、4年の時に……同じ村の班を決めた班長やけどね、3・1記念日のビラをね、なんでか、[家の]ポストの中に入れておったんですよ。それで、警察がパッと開けて、3・1記念日のビラが中、入ってる。「これどないしたんや」言うから「いや分かりません」て言うたら、「この野郎、分からんはずが[あるか]」。もう殴って、その場で殺しですよ。その場で「こっち来い」言うて、ばーって[殴って殺した]。3・1記念に参加した人、すなわち左翼の人みんなをね、殺してしまえ言うて。だから、大韓民国の選挙を通じてね、中央政府反対のために多くを殺したいということを普通は言いますわね。そんなことない。それはうちらが逃げて、だいぶしてからですよ。

そうして、私の友だちもね、3・1 記念日参加した人はとにかく処刑しろというのもあるけどやね、これは気の弱い人やからね、最初はそんな行ってないんですねん。「私は行ってないです」言うけどやね、「行った」と言うたらやね、ちょっとは[殴るのを]一服して[許して]くれるか思て「行きました」と言うてしまったわけです。言ってしまったらね、いや、本当は行ってないのに「お前、行った人は誰や」言うて。「5、6人です」言うたら、ほしたら[そしたら]名前分かるような5、6人だけ言うたんですよ。そしたら、その子らみな連れてきたら処刑ですわ。ほんで、「いや、私は全然やってません」言うたら、「何、この人が3・1 記念日に一緒に参加したいうのにね、何言ってんだ」と。ほんで、みな処刑ですわ。

で、処刑した人でもね、わし1回見たらね、畑の溝に土をかぶせただけやからね、親は心配で、最初は[遺体を]いらわれんけど[触れないけれど]、ちょっとあの、用意できたら[遺体を]移転するようにしていたけれど。いや、私ちょっと見てみたらね、遺体の上にね、あれ、おかしいんですよ、ハエが真っ黒ですよ。そんな土の中にハエが

あるんですよ。ありえない話ですよ。ほんで、後から聞いたら、たぶんね、土をごつついかぶしたらええけど、[十分に土をかぶせなかったので] 一部穴が開いてたのと違うかと。その穴からハエが入って、種 [卵] 産んでそうなるんだと。いやあ、もう遺体の頭から足まで真っ黒ですよ、ハエで。ほんで、振り向いたら、バーっと逃げて行ってね。

《中学校での蛮行》

朴：それからね、こういうこともあるんですよ。わし、中学生の時にいよいよ内乱で、あまり学校に行かれん時にね。ある日、中学校で学校の父兄会がありますよね、父兄会があつてね、学校の授業に親が参加してみて。ちょうど後から警察が来て、名前を呼ぶんですよ。民主少年団に入った人の名前を呼ぶんですよ。名前呼んだらね、そこにね7、8人くらい名前があつたんですよ。出て行ったらね、親の目の前でみな殺してしまった。親の目の前で。

——子どもを？

朴：うん。親もみなびっくりして。親が「何やってるんだ、助けてくれ」。何言っても親の目の前でみな殺して。その中には優秀な一人っ子も3人くらい入ってますよ。めちゃくちゃでしょう、親の目の前で。

——それは4月3日の前ですか？

朴：前です。

——警察ですか？ 西北青年団？

朴：警察です。民主少年団は、明らかに左翼の一部だと言ってね。いやー、一人っ子が3人もおるのに。親が大変ですよ。

——^{ソンセンニム}先生は、その名簿の中に入れてなかつたんですか？

朴：いや、入れてなかつたな。私もね、入った入った言うて殴る人がね、後から見たらね、うちの[村の]^{キムファンソギ}金煥石、後から日本に来て早稲田大学出て、今、北朝鮮に帰国して、金日成大学の教授やってますよ。殴る人がね、その人の従弟の弟やのにね、^{キムファンソギ}金煥石殴つて、組織に入った言うたら殴るの中止する言うて。おかしいこと言うて。後からね、自分の兄貴にそのことを密告した。

だから、うちの村でもね、二日に1回ずつ密告に行く女の人がおるんですよ。一人はうちの身内、もう一人は梁家^{ヤン}で。二日に1回です。全然知らなかったけど、最後に警察に言うにはね、うちの今岳里^{こんがくり}も大変な目に合う、いうて、二日に1回ずつ密告して来る言うて。

——二日に1ぺんずつ、この人はああだこうだと言いに来るんですか？ 警察に。

朴：そうしたら、いろいろランクつけるんですよ。それでこの人は殺すし、この人は生かすし。

——それはどうやって？ 警察の方から逆に聞くんですか？

朴：そうそう、最後に警察の方がね、「いや、今岳里^{こんがくり}も大変だね、二日に1回ずつ、こんだけ密告が入るんだよ」言うてね。密告もね、まともな密告ではなくて嘘の密告もひっくるめてやるんですよ。同じ村の人なのに、この人、日本人の材木で作ったこの家を燃やしてしまえ言うて。それは自分の姉さんの嫁入り先ですよ。汚い汚い、ほんまに……。

《4・3の始まり》

朴：そうしたらある日、ざっと4・3の日の十日ほど前ですわ。山に行った人でもね、今度は反撃に出るんだということだね、いやあ、どないするんかなと見ておったら、まず翰林里^{ハルリム}に攻撃をかけました。そしたら、鉄砲がね、日本のこうしたら玉入れてポーンとする、あの鉄砲です。あれ2丁。あとは竹槍とかでね、だいたい20人くらいで攻撃していったら、警察も全然予告なしに来たからみんな逃げてやな、警察〔官を〕その時二人くらい殺してしまいました。そうしたら、翰林^{ハルリム}の警察が4,5日空白になったんですよ。そうして、山から攻撃に行った人の一人が亡くなりました。うちの身内の、朴秀行^{バクスヘン}という人が亡くなって。そうして、みんなで葬式したのですが。

さあ、亡くなった山の組の人は、勝利につながった人の、今日は葬式だ、いうことで、もうあんた、村中の人5百人くらい集まると同時に、警察のある翰林^{ハルリム}ではね、お金も持ってくるし、酒も持ってくるし、いろんな食べ物も持ってくるしやね。やっぱり山の人にも上手にしておかなあかん〔丁寧に対処しなければならない〕いうてね、そうして盛大にやりました。そうしてやっておったら、〔朴秀行の〕嫁さんになる人が、食堂始めて半年くらいですかね、それで亡くなったから、嫁さんはもう泣いて泣いて、泣きやまんですよ。そうしとったら、主人のお父さんは、もうその時60くらいですかね。「こら、

お前、泣くのをやめ」と。「こんな嬉しいこと、どこにあるか」と。「みんな、お前の旦那さん亡くなったのに、こんな5百人くらいは参加するし、金は持つとるし、こんなに祝ってるのに、泣いてええのか」と。「泣きやめて、この人らにみな挨拶しろ」と言うたら、10分くらい泣いてあとは「いや、分かりました」言うて、やった経験があります。

この朴秀行のお父さんがね、踊るんですよ。今日、山の人が攻撃してね、朝になったら、戦力ないから負けるか知らんけどな、今日この日、うちの鬱憤を晴らしてくれたからね、もうひと月以内に殺されてもいいんだと。「この光景見れたから、私、嬉しいん」と言っつて。もう、踊りますねん。

もう一つは、うちの村とは反対に楮旨里チョジリいうてね、うちの村を管理する警察署がある村ですわ。そこは山から〔武装隊が〕行って、聞くとね、〔武装隊を〕50人くらい殺したんですわ。悪質な人が多いんですよ。ほんで、警察の留置所がいっぱいの時にはね、自分の家でも連れて来い、言うてね、農家には農産物をちゃんと入れる別個の部屋があるんですよ。その部屋のなかに入れてね、山に逃げた人の親を、自分らとおなじ年寄りの人をね、1日1食くらい与えてね。まあ、悪いやつらやからね、50人くらい殺してね、大きな成果上がったと言っつて、やっておったんですが。

4・3 弾圧と再拘束、疎開

《警察による島民への虐待》

朴：とにかく引っ張って行っては、殴るしね。警察におる間は、家で食べ物運ぶけどやな、本庁行ったら、これよりもうちちょっと大きいくらいの茶碗に、大根を切って塩ふったやつ、日に3回くれましたわ。そやけど、それはわずかやから、腹はふくれはしないけど。軍隊に引っ張られて行かれた時には、留置所がいっぱいやからね、農林学校〔当時は済州公立農業中学校〕^{④-＊10}の農地の広いところがあるから、そこにテントを14、5くらい作って、そこに残った人を入れますねん。そうして、ご飯の時には、「ご飯取りに来い」言うて。いちおう言うんですよ。ほんで、ご飯取りに行こうと思ったら食器も何にもないですよ。箸もないのに。それで、しょうがなしに、上着のところにご飯を入れて持ってきて食べたり、あるいはどっかに紙があったら、紙に受けて食べたり。

警察に〔連行されて〕行つとる間はね、顔も1回も洗わない、歯も洗わない。やっぱりね、人間、歯も磨いて、顔も洗わんなあかんの、歯も洗わんから、やっぱり取り締まりするところ行ったらね、臭いらしいですよ。ほんで、「お前、臭いから下がってしゃべろ」っ

て言うたら、また殴るんですよ。「距離を、ちゃんと持たんか」言うてね。とにかく、むちゃくちなことをしてね、まあ、私も、とにかく濟州島を逃れなあかんということも思いました。

うちの村の青年団には、そう活動をしていなくても、ちゃんと役員を配置してね。団長になる人は、とっくに山のほうに行ってしまったし、副団長、総務 [に] なる人の3人がね、石垣のほうに空洞を作ってね、そこで寝泊まりをしながらね、隠れるようにしとったんですわ。ある日、なんでか知らんけどね、警察が石垣の上に乗ったら、石垣がぐぐーっと下がっていくんですよ。「え、なんでやろ」って、掘って見たらね、青年団の副団長と総務と、もう一人の3人がそこにおるから、引っ張り出して。

3人のうちで朴^{パクナムヘ}南海、南^{ナムジニ}眞はね、どうせもう死ぬ覚悟できてますよ。で、[警官に]「こら、お前ら、人殺し違うか」と。「お前ら人間違うか」言うて。「この野郎、俺を殴る、言うたけど、まともにも何もできてない人間を殴って、俺はなんぼでも命捨てる」言うて。そしたら [警官は]「お前は生意気やから、殺してやる」言うて。「おお、殺せ」言うて、「お前ら、それでも官僚、警察か」言うて。そうしたら、警察に行った同期生がおって、「いやいや、そう、あんまり高圧的なことは言わんと。[相手は] 警察官なんやから、ちょっと謝りながらやれ」言うたら、「いやいや、こんな汚いやつには、そんなことできへん」言うて。で、「ほんまに殺してもええか?」「ええよ」言うて。そしたら、[警官が]「お前をほんまに殺すんやったら、私のほったを2回殴れ」言うて。そしたら、正々堂々とピシャーと殴ったんですわ。そしたら、「よっしゃ、殺してやる」言うて。首から落として、手も落として殺して、四つ割りにして。

そして最後は今^{クマンリ}岳里の警察署まで [死体を持って] 行ったんですが、ちょうど、その今^{クマンリ}岳里には殺された人の姉さんがおったもんやから、よかったですわ。姉さんが、ちょっと [警官に] 賄賂でもやったのと違いますかね。そうして、その「手と足だけ先にくれ」言うて、畑に埋めて。頭はね、警察のほうにずーっと置くんですよ、死んだ人間を。

しょっちゅう逃げとったら、選挙 [南朝鮮単独選挙] ^{(5)*5} ということ、よう分からんから、「官庁の方からハンコをもらいに行くんだ」と。「ハンコを押したらあかんから、みんな今日は山の方に逃げておこう」と、こうですよ。ハンコ。あれは単独選挙の時のあれですよ。だからうんと後ですよ。だから選挙に反対するいうて殺す、そなん、あんた。もう私が最初に聞いた時にはね、濟州島の方は、朝日新聞に出てたけどね、ほんとに7万人³⁾ くらい死んでいますよ。今もうあの [4・3事件犠牲者の] 在日遺族会^{*9} に

3) 濟州4・3事件真相糾明および犠牲者名誉回復委員会の真相調査報告書(2003年)では、4・3事件での死亡者数を2万5千名から3万名と推定している。

「入り [入りなさい]」言うても、入らない人が多いですよ。金 [補償金] みたいなんは要らんと。昔のことはもう思い……。

——思い出したくない。

朴：思い出したくない。そういう人，多いですよ。

——今おっしゃったハンコというのは，選挙人の登録のことですか？

朴：いやいや，選挙の話や，選挙の。あの今でも選挙やっていますよね。候補者が誰々言うてますよね。そのことを言うておるんですよ。

——あ，だから，投票用紙にマルか何か，ハンコを押す？

朴：だから，言う人は，選挙のことあんまり分かれへんねん。分れへんから，簡単にね，「ハンコをもらいに来るから，山の方に逃げときましょう」言うてね。選挙を反対しましよ言うて，そのことですよ。選挙言うても分かれへんやん。やったことないし，権利もないのに。

——そういうふうには3・1の集会に参加した人たちが，たくさん殺されたので，4・3事件の時に襲撃をした後は，先ほどおっしゃったように，お祭りのような形でお祝いというか，そういうことをされた？

朴：襲撃した後ですか？ あれはね，個人的なこと。踊って，祝った人がね，明日，明後日負けるかも分からん，と。今まで，[警察は] 殴ったり，山に逃げて苦しめたりしたけどやな，うちらは戦力に負けるか知らんけどやな，今日はバアッと鬱憤ばらしできて嬉しいという，やけくその話ですよ，やけくその話。

——それは4月3日に警察署を襲撃した時の話？

朴：そうそうそう。家燃えるの，みな見ますよね。だからそれ見てもみな喜んでね。あの，^{チョジリ}楮旨里いうのは右翼の人が積極的にやる人が多いからね。行ってきた人がね，昨日はね50人殺した言うてね。大分殺したわけですよ。ものすごい悪いから。

——踊ってたおじさんという人は，どういう方ですか？ なんでそこまで。

朴：朴秀行^{バクスヘン}という人のお父さんやけど。やっぱり，ちょっと有識 [学識] はそんなにない人やけどね，気分的に殴られて，いつも攻められっぱなしやからね，明日，明後日やって，

負けるかも分からんと。今日1回暴れたから、もう一部の不満は晴れたと。これから勝つというて喜ぶんじゃないですよ。負けるか分からんけどやね、今日この日、鬱憤ばらしができたから、わし嬉しいって。

——襲撃して死んだ山の人の葬式も同じ時ですか？

朴：そうです。肝心の警察署を襲撃して一人死んだ、その、石垣を超えて、ぱっとやったら、ひっくり返ってね、首を折るような状態で死んだらしいわ。

——지금 말씀을 하신 사람, 말씀을 하신 이름들은 여기에 제가 찾아 볼 수가 없어서. [今おっしゃった人,おっしゃった名前は,ここ(4・3事件犠牲者名簿)では探し出せません。]

朴：여긴 몇 명이나 올랐어? [ここには何人ぐらい載ってるの?]

——여기엔 1만 5천명 정도. 1만 5천명 정도 있는데 아까 부회장께서 말씀을 하신 이름들은 여기엔 없을 것 같은데.[ここには1万5千名ほど名前があるんですが,さっき副会長(朴榮萬さん)がおっしゃった名前は,ここにはないようです。]

朴：여기에 안 올라 간 사람들은 참 많다. 희생 당한 사람 많이 있지만 [ここに挙げられていない人たちは大変に多い。(うちの村にも)犠牲になった人はたくさんいるけれどね], 4・3事件の会に, 안 가겠다고 한 사람은 옛날 싫어하는 것을 또 생각하는 것은 [行かないと言う人は,昔の嫌なことをまた思い出すのは] もう1回思い出すのはよくないと, ばかばかしいと, 来ないですよ。来ない来ない。だから, 全羅南道, 光州の事件 [1980年の光州民主化運動] ではね, あれを見たらあんだ, 180何人死んでおったかな [政府公式発表では死者191名]。光州事件では, [政府が被害者に補償する] 金ぱっと出してやな。うちら [済州島民] やったら7万人近く死んでもやな, まだや。だから今年亡くなった, 金大中^{アトーンニョン}大統領のね, あの人の恩恵が大きいですよ。あの人が大統領の時にね, これはちゃんと認めて補償せなあかん [補償しなくてはいけない] 言うてね, 法律作ったのはあの人やから。あれはええ人ですよ。

《再拘束と疎開》

朴：ほんで, 私がほぼ死に目に合う時はね, 1回うちの村に警察が来てね, おおかた25人くらい引っ張って行って。引っ張って行く時には, 年寄りのおばあさんがね, 74, 5くらいやったかな, 歩かれんですよ。で, もう一人は, 杖でびっこでないと歩かれん人

ですよ。そしたら、警察が、「こんな、面倒臭いの連れて行ったら時間かかるから、ここで殺してしまえ」と。で、[二人を] 殺してしまったんですよ。ほんで、[他の村人を] 造水里警察に連れて行ってね、そらもう大変な目に合うてね。最後釈放されんと処刑なった人もおるけどやね。12から3, いや15人くらい殺してやったあと、5日目にね、また[村に] 来てやって。

その時、私、逮捕されました。「これはもう、最後だね」言うて。そしてやっておったら、お母さんでも見えるか[別れ際に会えるか] 思ったら見えないし、お母さんの知り合いの人に言うてね、「私は今度、ほぼ死ななあかんから、うちの財産みな売って、私を助けてくれとお母さんに言うてくれ」言うていうたら、「よっしゃ、そないするわ」言うて。そうしながら、いったん[警察に] 行きました。行ったら運よくね、さっき言った私の郷里のようなやり方でね、65歳以上の人と15歳以下の人は出て来い言うからね。その時私は、そやな16歳やったかな、そやけど「15歳、先出ろ」言うからね、出たらね、運よく「よっしゃ、お前ら帰れ」言うて。ほんで、帰ってきたんですよ。ほんで、帰る時、郷里の事務所で「いやあ、こんなやつ帰して、何してんねん」言うて、[それでも] 帰って行ったんですがね。

うちの村の山の向こうにはね、本当に貧しい農場と7、80の所帯があったんですよ。作物もよう作らんと馬鈴薯とか、芋しかよう作らんから。そして今度はね、警察官やって来たら、今度はその村でね、山に逃げた人を二人くらい、つかんだ[捕まえた] んですよ。そうしたら、えらい[とても] 言葉は悪いけどね、うちの村ではね、冬になったらオンドルがあつてね、寝巻きなんかないですよ。もう、真っ裸になって寝ますねん。で、向こう[の村で] も真っ裸になって寝ておったらね、夜中2時に[警察隊が] 来てね、その家をみな焼いてしまうんですよ。そうしたら、冬寒いのに、裸でみな逃げんなあきませんねん。

そうしてやっておったら、うちの村の里長がね、姜文豪^{カンムンホ}いうてね、「ここはこうして焼いてしまったけど、次はうちの村を焼いてしまうのと違うか」言うてね。「これは何とかせんにゃあかん」言うてね。それで、30人くらい集めて。30人みなに白い服を着させて、白い旗を作って、そうして7キロの道を、警察署まで行ったんですわ。ほしたら、警察ももうびっくりしてね。みな白い服着て、白い旗持ってるから「お前ら、いったいなんじゃ」言うてね。「いやあ、うちの向こうの貧しい農村を夜中来て燃やしてしまうもんやから、うちの村も燃やしたら大変だ」と。そやから、「うちの部落を特別に見て[見逃して] くれんか」言うたら、「いやいや、あんたらの部落も燃やす日程に載ってるから、そのうち燃やしてしまう」って言うたらね、それでいろいろお話したら、

お願いしたらね、「二日間の余裕があるから、一切海側のほうへ疎開せえ」と。海辺のほうに二日いうたら、所帯道具はそんなないけど、穀物はみんな〔始末〕できへんから、もう1日余裕をもって三日間でね〔疎開した〕。そこはみな焼いてしまいました。濟州島でね、家焼く例はね、うちの村が一番最初だと思いますわ。

そうしてその時はどういう人が来たか言うたら、濟州道庁の警察本部から包囲しに来てね、本部の金チャンファいう副署長が来てね、指揮をとって、みなやってきました。うちの村ではほんまに優秀な家やのにね、^{バクナムヘ}朴南海の家で、お父さん^{ソンソニ}性先いいますけどね、この家は敵産物^{(7)*9} いうて〔植民地時代に〕日本人がおって〔日本に〕引き返す〔引き揚げる〕時に材木も、ようけ〔たくさん〕置いておったんですよ。〔朴性先は〕金ある人やから〔敵産物の〕材木買うて、ごっつい家を建てました。そうしたら、ちょうどその時にさっき言った右翼^{カン}の姜ヒョッキがね、「この家は、日本人が残した材木で作った家やから燃やしてしまえ」と。それで、〔西北青年団員に命じて〕燃やしたんですよ。そうしたら〔村を燃やすという命令を受けていなかった〕警察の副署長がね、「うわ、家が燃えとる。なんで、家燃えとる、大変だ」言うて。〔姜ヒョッキは〕逮捕して集めた女の人にね、「あの家燃えて納得したやろ」言うて。〔村には〕ここらみたいに消防車も何もありません。背中に水ガメをやったやつを、水を汲んでいって屋根の上にかけるくらい。

——：^{ホボク}하복 [水がめ] *10 ?

朴^{ホボク} 하복。それを担いで現場まで行ったら、今度はその、家焼く連中が^{ホボク}하복背負って〔火を消しに〕来た奴をそのまま殴るから、^{ホボク}하복負ってきた人もそこで〔水がめを〕負っていたから水びたしですよ。そうして、牛やら豚もみな鉄砲で殺してしまいました。殺すのも、副署長は分からないので「うわ、何の鉄砲の音や」言うたら「いや、火薬があるからね、燃やしとったら自動的にそういうこと〔爆発した〕ですよ」言うてね。それが始まりですよ。

そして、私もお父さんやお母さんの兄貴らが、うちの家からだいたい7キロある^{チョスリ}造水里いうとこに最初疎開したんです。うちのお母さんのほうにはね、おじさん7、8人くらい来てね、〔荷物を〕ザーツとして持つ



図3 하복 (濟州島の水がめ)

て行ってくれたから二日間で十分でした。そして、その中間に見ると、さっき言うた金持ちの家はね、みんな燃えるのに六日間かかりました。なんでか言うと、穀物を燃えるのにね、すぐに燃えんと六日間かかりました。振り返ってみると煙が見えるからね、さすが15歳の私でもね、いやあ、涙が出ましたね。あの郷里には今度いつ帰られるかと、そういう思いですよ。そうしてから、^{チヨスリ}[造水里の次に]^{バンボリ}板浦里行って疎開していました。

そうして住んでおいたらね、山の部隊から私住んでたところに攻撃があったんですよ。で、それを見るとね、だいたい易者の本を見てね、ええ日を、月夜の晩をねらって攻撃してくるんですが、[山の部隊は]ちょうど私が石垣の上で夜警するその日に来て、家を燃やしたり、家の中にある穀物を食べ物がないから運んでいきましたよ。運んでいながら、あの^{バンヘ}塙訓いうて、穀物の皮をむいて食べるようにする石ころグルグル回してする、あの石臼ですわ。馬か牛で[挽かす]ね。山の人[パルチザン]がね、まずそこへ火つけますねん。これはいけないと思うわ。そこに火をつけたら、あくる日から穀物を挽く、それできない。穀物持っていくでも、当然、強盗と一緒にやからね、何か文面でも置いてね、うちは食糧が足らんから、こんだけのやつを、嘘でもええから、持ってきます、よろしくください、言いながらやるんやったええけどね。これはいけないと思いました。

《死の危機と最初の疎開地》

朴：[それから]約ひと月半くらいしたらね、警察に出頭するように言われて。で、私、うちのお母さんと私で出頭しました。出頭したらね、それから殴ったり何したり、もう大変ですわ。向こうは道の警察署やけどね、人殺す場所はね、広くて深い畑があるんですよ。そこへ行って、人をたいてい殺すんでね。私おる時は、たいてい4千人くらい殺してるかな。そこへ、いったん私も連れて行くから。

当時私は16歳やからね。私もあの、成績がだいたい学年で2番、3番やっておったもんやからね、自分いうのもおかしいんやけど、女性にも結構気の合う人がおってね。ふっと思ったら、気の合う人と2回くらい二人だけ遊びに行つてね。ほんまに楽しい生活、遊んだ記憶思い出してね。いやあ、16歳の子でしょ。この世に生まれてね、一度結婚して所帯でも持った経験があつてあの世に行くんやたらええけどね、16歳であの世行くなんて悔しいな^{おも}思てやね、それ考えるとね。まあ涙が出て来てね、もう大変ですよ。

同時に、殺すのは鉄砲で撃つから、痛い目に合うのは30秒くらい違うかと。30秒く

らいした後はね、死んだやつは蹴っても、こないしてもええから……。一番問題なのは30秒痛いのは辛いからね、何とかいけるやろと。そうして泣いておったら、もう一人の警察のやつが来て、「こら、お前、ちょっと調べる残りがあるから、お前だけ控え室に來い」。ほんで、警察に連れて行くんですよ。警察に連れて行かれて、だいたい、そうですね、ひと月半くらいですかね、ある日わしを呼びだして「お前、今日から、便所掃除、ババ掃除、みな汚いところ掃除せえ」言うから、「ははあ、これ、殺す人間は千度使って殺す作戦やな」思ってね。それやったら、前みたいに鉄砲でパッと撃ってくれるほうがええのに、これも大変やな思うて。それで、言うとおりにウンコの跡とかもね、きれいに掃除して帰ってきて。

あくる日、一緒に牢屋におる人がわしを呼んでね、「お前、処刑するのを免れた」と。「なんですか、処刑する人やから千度使って、殺そう思たの違うか」言うたら、「あれはね、掃除しに行けいうことは、一人なんぼでも逃げられるということや。逃げてもええし、人を〔掃除に〕やるということは殺す人間にはしないんだ」言うて。「いや、ほんますか」言うて。そして、またひと月半くらいしたら私を呼んでね、「お前は調べたら、そう悪い結果、罪はなかったから、帰れ」言うて。そして、帰りました。

——この16歳の時は、農業中学校ですか？

朴：中学校。^{ハルリム}翰林中学校。

そうして、もう一つの例をあげますと、私が疎開しておった造水里^{チヨスリ}いうところもね、やっぱり山から〔パルチザンが〕来てね、悪い人4、5人くらいつかんで〔捕まえて〕いって殺してしまいました。で、殺してしまったらね、ちょうどそのなかには今岳^{クマク}警察署の署長の弟がね、連れていって殺してしまっただけで、造水里^{チヨスリ}はね、海辺に近いから焼く村に入ってないですね。だけど、その人〔警察署長〕は金文京^{キムンギョンイ}いうんやけどね、この人が運動してね、この村も焼いてしまえ言うて、焼くように決めてしまっただけで。そうしたら、今まで村長やら理事やった人が、昔は李在守^{イジエス}*¹¹いうて大きな内乱がありますやん。あの時でもうちの村は無事やったのにね、こんな時にうちの村が焼いてしまうなんて、これはもう悲しい言うて60、70の人が大声で泣くんですよ。

泣いてしておったらね、もう一人は、いま言った警察署長の従兄の兄貴がおりますねん。「この野郎、常識のないことに自分の郷里を燃やすバカがあるか」言うて、またものすご怒るんですよ。そしたら、その人たちをみな警察署に連れて行きましてん。連れて行ったらね、昔の村長やら理事した人らはね、殴りつけてね。人をあんまり殴ったらね、指の間から水しぶきが出ますねん。ちょっと血の混じったやつが。警察署長の従兄の兄

貴は殴り殺してしまいましたな。で、殴り殺した人はね、昔から有名な狭才^{ヒョプチエ}のマラソンの選手でね、ガッチリした。警察署長が「うちの兄貴」言うて、してしたんと違う？もうこんな棍棒で殴ったり、何しておったらね、最初は痛い痛い言うておったけど、殴り過ぎたらね、もう意識も何にもないですよ。唸ってハアハアハアハアして。そないして三日後に死にましたな。まあ、もの全然言われなくて三日目に死にました。

そうしたら、この金文京^{キムムンギョンイ}署長はね、けっこう財産家ですよ。財産家でね、自分の造水里^{チョスリ}の村ではね、こんな悪いやつは、うちらは共同でね、処罰せなあかんと言うてね、この人の財産は一切売れんようにしてね。そうすると同時に、こんな悪くする人はね、巨済島^{コジェド}いうてね、小さい島ですよ。誰かつかみに〔捕まえに〕来るより先に逃げて行ってますねん。そうしてね、ちゃんと自分が〔悪いことをしたと〕分かっているから。

だから、済州島の動乱はいろいろあったけどやね、これを李承晩^{イスンマン}はね、「済州島一個くらいはね、韓国の政府はもうなくてもいいんだ」と。「済州島なくても、あんた、たかが20万くらいの島1個なくてもええから」言うてやね、あの趙炳玉^{チョピョンオク}*12に言うてね、「お前、みな、行って殺してこい」としたけど。趙炳玉^{チョピョンオク}が港の上^{チョピョンオク}に上がる時に、棍棒持って、「お前ら棍棒でほとんど殺してやる」言うて、それから殺しが始まってね。

うちらの村でも殺す人間はね、いわば罪ない人間ですよ。嫁さんと喧嘩もしたことのない、友だちにも大きいこと言われぬ、そんな善良な人がようけ〔たくさん〕おるのにね。土を掘れ言うたらね、また掘らんかったらね、大変です。掘ったらね、〔深さが〕その本人の肩の下くらいになっとったら、いったん「手を後ろにせえ」言うてね。ほんなら、本人も万が一のことを考えておったかも分からんけどやな、土をぶっかけて埋めてしまうんですよ。ほしたら、生きたまま埋めてしまうからね、それは大変ですわ。

だから、どうしてこんなこと起こったか申しますと、済州島はね、このころはそうでもないけど、〔当時は〕テレビ、ラジオ、新聞、一切ないですよ。まあ、新聞はあるかしらんけど。そやから、済州島のこと報道なんか全然しないからね、したい放題。

それと、あの話がとんとん〔飛び飛びに〕なって申し訳ないですけど、済州農林学校〔済州公立農業中学校〕に留置されておった時に、朝天面の向こうの坪岱^{ピョンテ}いうところに飛行場作る時にね、あの動員して、あの飛行場、土を平らにするために、おおかた2千名くらい動員しましたな。そうしたら、朝起きてご飯なしですよ。ご飯なしでやるから、わしも中学校2年しか勉強してないから、その中学校2年間習った英語を使ってね、ちょうどアメリカ軍が通ったからね、「Excuse me. I'm sorry. That all man, that mountain work」ってね、「あの山行って、今日仕事するんだ」と（笑い）。「But very hungry」。せやけど朝ごはん食べてないからね、「腹が減って大変だ」いうことを、わ

し言うたらね、これ大変ですよ。後で兵隊の副連隊長の人が来て、「誰が、腹減った言うて、アメリカ人に話した？」言うてね。「うちら、馬鹿恥かいた」言うてね、「そんなんやったら、自分らに直接言うたらご飯くらいやるのに」言うてね、「そんなこと言うな」言うてね。いやあ、「[言った人間は] 出て来い」言うか思てね、ハラハラしたけど。やっぱ、[見ているのが] アメリカ人でもね、同僚殴るのパツと止めますねん。

(以下、次号)

* 本研究は科学研究費補助金（課題番号 21520697）の助成を受けたものである。

【用語解説】

* 1 簡易学校

戦時体制期、朝鮮に設立された2年制の短期初等教育機関。植民地期における朝鮮人児童に対する初等教育は、おもに6年制（1922年以降。ただし地域によっては4～5年制。なおこれ以前は4年制）の「普通学校」で実施されていたが、1934年1月、実務教育の強化と普通教育の普及を名目に2年制の簡易学校の設立が決定された。簡易学校は公立普通学校に附設し、入学年齢は10歳を標準として、朝鮮語・修身・国語・算術・職業の5科目を学んだが、職業教育と普通教育の時間数は2:1の割合で、職業教育に重点を置いていた。都市簡易学校と農村簡易学校の2種に分かれ、前者では商工業を教え、普通学校用教科書を使用したのに対し、農業を教える後者では、田畑や牛舎・豚舎・堆肥場などの実習施設が設置され、独自に編纂した教科書を使用したという。1934年に全朝鮮で384校が設立され、1936年には880校に増加して、1郡あたり4校が設置される状況になった。しかしその後は増設されず、すべて普通学校の後身である国民学校に転換するか、廃校となった。

濟州島では、1934年に涯月面で古城簡易学校、西帰面で西好簡易学校が設立されたのを皮切りとして、1935年には城山面蘭山里、1936年には朝天面善屹里、そして1937年には朴榮萬さんが通うことになる翰林面今岳里に簡易学校が設立された。翌1938年にも濟州邑龍潭里と旧左面松堂里で設立され、その後もさらに6校が増設されたという。

* 2 宮城遥拝

1936年朝鮮総督となった南次郎によって推し進められた皇民化政策の一つ。南は1937

年日中戦争に突入すると、宮城遥拝のほか、神社参拝、日本語教育の強要などの天皇に忠誠心を誓わせる行為を日常化させた。宮城遥拝とは皇居（宮城）に向かって敬礼（遥拝）することで、「皇国臣民の誓詞」斉唱とともに朝鮮人に義務付けた。

* 3 日本軍の済州島駐屯（再掲）

アジア太平洋戦争末期の1945年3月、大本営は本土決戦に備えて「決号作戦」を策定し、アメリカ軍の攻撃ルートとして予想される7地域で迎撃作戦の準備をはじめた。このうち朝鮮を対象地域とする「決7号作戦」では、アメリカ軍による北九州方面上陸または朝鮮海峡突破の基地として、済州島攻略の可能性を想定していた。これに先立つ45年2月、朝鮮軍司令部は廃止され、第17方面軍と朝鮮軍管区が新設されていたが、とくに済州島の防備強化を目的として同年4月には第58軍が編成された。その結果、45年3月現在で約3千名ほどであった済州島の日本軍兵力は、中国東北地方などからの配置転換により、日本が敗戦した同年8月の時点で5個師団、約7万5千名にまで急増した。

* 4 キムボンヒョン 金奉鉉

歴史家。1919年、済州島旧右面（現・済州特別自治道済州市翰林邑）生まれ。関西大学、明治大学卒業。1963年、金民柱とともに編集、刊行した『済州島人民たちの《四・三》武装闘争史』（朝鮮語、大阪・文友社）は、韓国内で4・3事件に関する論議が封殺されていた時期に、事件の全貌を明らかにしようとした最初の著作である。その後、1978年には日本語で執筆した『済州島血の歴史——四・三武装闘争の記録——』（国書刊行会）を刊行。同書は4・3事件の事実経過を知るための、ほとんど唯一の公刊された日本語文献としての役割を長く果たしてきた。その他、著書に『朝鮮の伝説』（国書刊行会、1976年）、『済州島の地名考』（国書刊行会、1988年）、『秀吉の朝鮮侵略と義兵闘争』（彩流社、1995年）など。

* 5 韓国独立党（韓独党）

1930年（一説には1928年）、中国の上海で大韓民国臨時政府を支持するために安昌浩・李東寧・趙素昂・金九らが結成した民族主義右派の政党。傘下の行動部隊として1931年に組織された韓人愛国団は、李奉昌が昭和天皇に手榴弾を投じた桜田門事件（1932年）、上海での日本軍と日本人居留民による天長節祝賀会で尹奉吉が爆弾を投じた虹口公園事件（1932年）などの抗日運動を展開した。その後、左派勢力との協同戦線を模索するため、解散、再結成、再解散を経たのち、1940年5月に右派勢力を統合して三たび結成され（「統

合」韓国独立党), 大韓民国臨時政府において与党的役割を果たした。解放後は帰国した金九ら指導部を中心に, 南朝鮮で信託統治反対運動(反託運動)を展開する一方, 単独政府樹立に反対して南朝鮮単独選挙をボイコットし, 北側の金日成・金料奉らと統一政府樹立方案を話し合う南北協商を推進した。しかし南北それぞれで政府が樹立され, 1949年6月29日に金九が暗殺されると, 急速に勢力が衰退した。

* 6 コレラの流行

1946年の夏に南朝鮮全域でコレラが蔓延し, 7千人以上が死亡した。済州島だけでも4百人近い死者を出した。

* 7 青年団

解放直後に済州島の各地で青年団や青年会を名乗る組織が生まれたが, そのなかで最も代表的な青年組織は, 済州島建国準備委員会(1945年9月10日設立)の外郭団体として9月末に組織された建準青年同盟(初代委員長は済州邑の文在珍)であり, 11の邑・面のすべてに支部を置いていた。ここではこの建準青年同盟を指しているものと見られる。中央(ソウル)では解放直後に再建された朝鮮共産党の外郭団体として全国青年団体総同盟(青総)が組織されているが, 済州島では組織された形跡は見当たらない。

* 8 朝鮮民主青年同盟

1946年6月にソウルでは, 米軍政と結びついた右翼青年団体に対抗する統一戦線的な青年組織として朝鮮民主青年同盟(民青)が結成された。済州島では1947年1月に, 建準青年同盟が民青済州島委員会へ衣替えする形で結成された。

* 9 在日本済州4・3事件遺族会

金大中政権下の2000年1月に制定, 公布された「済州4・3事件真相糾明及び犠牲者名誉回復に関する特別法」によって, 4・3事件被害者の申告が始まると, 済州島で結成されていた済州4・3犠牲者遺族会の要請を受け, 2000年10月に大阪で在日本済州4・3事件遺族会が結成された。会長には李徳九の甥であり, 母親をはじめ家族・親族に多くの犠牲者を出した康実氏が, 副会長には本インタビューの証言者である朴榮萬氏が就任した。現会長は2代目呉光現氏。毎年4月に行われる大阪での4・3事件犠牲者慰霊祭を主催している。

* 10 ^{ホボク} 허벅

済州島の女性が使用する水汲みの道具。入り口の狭い甕でショイコに背負って水を運ぶ。水汲み以外の用途としては空の^{ホボク}허벅を活用して楽器として使用することもある。

* 11 ^{イジェス} 李在守（1877～1901）

奴婢の出身と伝えられる。19世紀末の済州島で、中央政府から派遣された徴税官の過酷な課税、これと結託した天主教（カトリック）に対する島民、在地官吏の反発が、民乱に発展した。当時、大静にある日本の漁業会社に雇われていた李在守らが指導して民兵隊を組織し、1901年4月に島内で大規模な武力衝突が発生、6月にかけて多数の死傷者を出した。フランス、アメリカ、日本の勢力が圧力を加えるなか、捕えられた李在守ら指導者3名はソウルに送られて絞首刑にされる一方、徴税政策は緩和された。利権を守るため済州島に入っていた日本商人は反乱軍を支援している。

* 12 ^{チョビョンオク} 趙炳玉（1894～1960）

忠清南道天安出身の政治家。植民地期は独立運動に身を投じ、1927年、新幹会の創立委員、財政総務などをつとめる。解放後、1945年に宋鎮禹ら右派勢力と韓国民民主党を創建し、米軍政の警務部長に就任すると、左翼勢力を搜索し、弾圧の陣頭指揮をとった。1947年に済州島で3・1節発砲事件に抗議し、3月10日にゼネストが起きると、趙炳玉は警務部長として済州島を訪れ、警察にストライキ鎮圧と首謀者の逮捕を指示した。大韓民国建国後は国連韓国代表や内務部長官などの要職を歴任するが、やがて李承晩大統領と衝突して下野する。1960年、野党・民主党の大統領候補として立候補するが、アメリカで病に倒れ、客死した。

* 13 済州島における再選挙

1948年5月10日の南朝鮮単独選挙において、済州島では島民の投票ボイコットにより3選挙区のうち2選挙区で選挙無効となったため、翌1949年5月10日に再選挙が行われた。